

K121.74

7a

4

共益商社編

明治三十三年五月二十三日  
高等小學校唱歌科  
教育部省檢定  
唱歌教科書  
卷四  
教師用

明治  
33 4 6  
內交

共益商社樂器店藏版

## 緒言

弊社晨に善良なる唱歌教科書の編纂を希圖するや、先づ在京知名の音楽及文學の數大家に乞うて、該書編纂上の審査監督の事を依頼し、同時に廣く書を全國各地なる専門の諸先生に致して、諸地方に於ける該科普及上の状況を始め、一般生徒の嗜好、歌曲難易の程度、旋法の種類、音域、歌曲の品題、分量、及び其排列の順序、教授の方法、其他編纂上要用なる條目に付て、委細の經驗注意等を寄せられん事を乞ひ、之を統計して、先づ編纂上大體の順序方法を定め、品題を選び、以て文學の大家に之が作歌を依頼し、再び之を各地の諸先生に配布して、其作曲を仰ぎ、集まれるもの數百曲の中に就て、更らに前記編纂監督の任に當られたる諸大家の、最も懇切丁寧なる審議取捨を經、茲

に着手以來幾多の歲月を閲して漸く此の編は成りたり、されば本書は、其編纂上最も精密の手續きを履みて生れたるものなる事を信ずるものにして、こゝに其歴史を序すると同時に、謹んで之に干られたる諸大家に向つて、深く其好意を陳謝すと云爾。

明治三十五年四月

## 本書の特色及び使用上

### の注意

#### 程度

○ 本書は主として高等小學四學年間の課程に適應せしむる目的を以て編みたるものなり。

(されば、本書の第三卷第四卷及び其他の幾分は、また中學校及び高等女學校にも適用するを得るものとす)

#### 歌曲の順序

○ 本書に於ける歌曲排列の順序は、斯道の諸大家の最も精密なる審査を経て成れるものにして、系統正しく漸次簡より繁易より難に進めるは勿論、遅き曲と早き曲と並に勇ましきものと優しきものとの配合音域の廣さ、題目並に歌想、曲想の程度、季節の順序及び各學期間に教授すべき歌曲の數等、凡て最も適切なるべき様編まれたるものなり、なほ曲を追うて、樂譜上新記號の現はる毎に、他の注意すべき諸項目と共に、必ず之を演奏注意欄内に記述したり、されば特別の事情ある場合に非れば、妄りに之を取

捨變換する事なく、たゞ全々所載の順序のまま、教授を進行すれば足るものとす、

但し祝日大祭日等の唱歌は、本篇以外別に練習を要すべきものなれば、之を行ふべき學期間の曲数は、豫め其割合を以て排列しあるものと知るべし、なほ毎曲必ず充分生徒の熟練するを待って後、次の歌曲に移るべく、又常時既習曲を復習すべき事は論を俟たず、

### 高尚なる歌曲

○三四年生用の歌曲中には、在來の唱歌集の程度に比して、頗る高尚なるもの無しとせず、されども、もと本篇の歌曲は、悉皆これ本邦人の作にして、特に最も我兒童に適切なもののみを選び集めたるものなれば、彼の外人の作の我國情に叶はざるもの、類を含まず、されば、一二年生より本教科書の順序により、正當の練習を積みたるものは、自然これら高尚なる歌曲をも見事に唱誦し得て、よく其趣味を會得し得るに至るべきを信ず、彼の常時徒らに兒童の容易く擬唱し得らるゝもののみ、多々注入するが

如きは、斯の科の教授上、善良の結果を擧ぐべき所以に非ず、

但し樂曲教授には、必ず樂譜を用ゐ、視覺上の智識をも應用せしめて、意識的練習を爲さしむべき事勿論なり、

〔附記〕本書編纂に當り、一般地方の専門家より聽くを得たる意見の大多數は、一二年生には畧譜、三四年生には本譜を用ゐしむるを以て適當となせり、

### 調子

○本篇に於ける樂曲は、其自然の性質と兒童の音域とを考へ、夫れく適當の調子を以て記載しあるものなれば、妄りに移調變換する無からん事を望む、

但し曲により、一音内外の區域に移し得べきものは、演奏注意欄内に之を附記したり、

### 曲の想

○歌章に意義あるが如く、樂曲にも亦各其想あるものにして、勇ましきあり、優しきあり、廣大なるあり、輕快なるあり、其様一ならず、蓋しこの想こそ、唱歌上最も緊要なる條件にして、これ無ければ、樂曲は全く死物と成

り了るべし、本書は毎曲首に必ずこの曲想を附記し、なほ曲によりては、演奏注意欄内に於て更らに之を説明したれば、先づこれに依りて曲趣を悟り、其の心を以て唱歌せば、幾庶くは漸次美的興味を會得するに至らん、なほ特に強弱記號及び發想記號を附記したる曲にありては、充分之に留意して、善く其曲の眞趣味を發輝せん事を望む、但し先づ調子及び拍子に熟達して後、強弱及び發想の練習に及ぶを、正當の順序とす、茲に本書に使用したる記號の一般を説明すべし、

<i>pp</i> .....	最も弱く
<i>p</i> .....	弱く
<i>mp</i> .....	稍弱く
<i>mf</i> .....	稍強く
<i>f</i> .....	強く
<i>ff</i> .....	最も強く
$\text{<}$ .....	漸々強く
$\text{>}$ .....	漸々弱く
<i>rit</i> .....	漸々遅く

### 速度

○ 樂曲の速度は、また曲想と大關係あるものなれば、其緩或は急に失する事無からん爲め、毎曲必ず拍節機の度數(レキニ)を附記

### 拍節機

して、其速度を明示し、なほ一曲中に特別の緩急あるものは、演奏注意欄内に於て、更らに之を述べたり、

但し新に教授せんとする樂曲は、豫め拍節機に依りて、其拍子の速度を計り試み、よく其曲趣を會得し置くを善しとす、又若し教授に際して拍節機を使用する事あるも、曲首三四小節間にのみ之を用ゐれば足れり、一歌曲を通じて拍節機と共に唱歌するが如きは、機械的に流れて却て曲想を失ふの憂あるべし、

〔附言〕從來唱歌教授の通弊として、樂曲の速度多くは緩に失するの傾あるに如たり、

### 發聲法

○ 聲音は唱歌上唯一の材料にして、發聲法の善悪は直ちに歌曲の美醜に關す、されば教師は常時兒童の發聲に注意し、能ふべきだけ善美なる聲音を使用せしむる事を怠るべからず、吸息法も亦唱歌上重要な一條件にして、こはまた呼吸機の發育に關する事大なり、本篇樂譜の上部に記したる、V記

號は即ち吸息の箇所を示したるものなり、  
〔附言〕從來該科の教授には、暴聲を用ゐて  
絶叫するをのみ活潑なる唱歌法と誤解  
するの弊あるが如し、くれぐれもこの項  
に注意あらん事を望む、

教授上の説明の要

○ 歌詞の意味に付ては、毎歌章の末に大要之  
を解釋したるが、教師は先づ歌曲の題目歌  
意、曲想等により、善く他科との聯絡を考へ、  
又既習歌曲との類似点及び差点等を視適  
宜に生徒と問答し、或は善く其意を説明し  
て充分兒童の興味を喚起し、且つ教授の聯  
絡を計らん事を要す、

注意欄

○ 上記記載以外の條項は、各曲に注意欄を附  
して、一々其内に之を記述したれば、每曲先  
づ之を熟讀して後、教授に従はん事を望む、  
○ 第三卷及び第四卷には、卷末に女生徒専用  
曲を添へたれば、適宜に之を學期間に配當  
して教授すべし、

女生徒専用曲

唱歌教科書卷四 教師用

目次

第一學期

- 一 花見……………二頁
- 二 仁徳天皇……………四頁
- 三 我陸軍……………六頁
- 四 京都……………八頁
- 五 ワンントン……………一〇頁

第二學期

- 一 富士山……………一四頁
- 二 田舎の夕ぐれ……………一六頁
- 三 朝日の旗……………一八頁
- 四 靖國神社……………二〇頁
- 五 日本武尊……………二二頁
- 六 歳暮……………二六頁

第三學期

- 一 樂しき我家……………二八頁
- 二 日本海軍……………三二頁
- 三 御眞影……………三六頁
- 四 名は萬代……………三八頁

女生徒専用

- 一 花鳥……………四二頁
- 一 赤十字……………四六頁
- 一 亡き友……………四八頁
- 一 水鳥……………五〇頁

# 花見

(一)

あさ日にほへる、花の山  
 つどへるますらを、そこにこゝに  
 うたひてあそべり、花のこかげ、  
 うるはしや花、うるはし花

(二)

夕日にほへる、花の林  
 つどへるをとめご、そこにこゝに  
 かざり行くなり、八重のさくら、  
 うつくしや花、うつくし花

注意演奏  
 ○豫習曲として前々學年に出させる「幾夫」を復習すべし  
 ○各段末節の二分音符と四分音符との間はスラーがあるが如く滑かに歌ふべし

楽シゲ= (♩=132) (は調四分ノ四拍子)

mf

5 1 2 3 3 4 | 5 3 6 5 3 | 4 4 3 2 1 2 3 | 6-5 0 |

ア サ ヒ ニ ニ ホ ヘ ル ハ ナ ノ ミ ヤ マ  
 ふ ひ に に ほ へ る は な の は や し

1. 2 3 2 3 | 4 5 6 5 3 | 1. 2 3 4 3 | 2- 1 0 |

ツ ド ヘ ル マ ス ラ フ ソ コ ニ コー コー ニ  
 つ と へ る を と め ぐ そ こ に こー こー

f

6. 6 1 7 6 | 5 3 6 5 3 | 5. 5 6 6 7 | 1-5 0 |

ウ タ ヒ テ ア ソ ベ リ ハ ナ ノ コー カ グ  
 か ざ り ぐ け なる は への さー く ら

mf

5. 5 6 5 5 | 1. 2 3 4 3 | 2- 1 0 ||

ウ ル ハ シ ヤ ハ ナー ウ ル ハ シ ハ ナ  
 う つ く しー や は なー う つ く しー は な





# 仁徳天皇

玉の宮居(一)は、名なのみにて、  
 あれにぞあれし、大おほのみにて、  
 三み歳の月つき日ひ、凌あやぎつゝ、  
 民たみのかまどを、にぎはし給たまふ、  
 その大御おほみめぐみ。

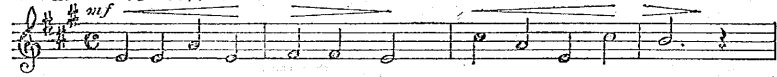
雨あめふりしきる、あしたにも、  
(二)風かぜふきすさぶ、夕ゆふたにも、  
 大御おほみ身みの上うへは、忘わすれられて、も  
 民たみのうへのみ、思おもはし給たまふ、  
 その大御おほみ心こころ。

この歌はかしこくも仁徳天皇の民を愛し給ふ大御心のありがたさをたへ奉ったのである。  
 玉の宮居は名のみにて、玉のよしな御殿とは言ふば凌ぎつゝ、御みこらへ、  
 風ふきすさぶ風が吹き

意注奏演 第四段第四節は稍緩めて、又最後の二小節は前より凡倍遅く歌ふべし

# 仁徳天皇

重々シク (♩=88) (い調四分ノ四拍子)



5 5 1 5 | 6 6 5 - | 3 1 5 3 | 2 - 0 |  
 タ マ ノ ミ | ヤ キ ハ ナ ノ ミ ニ テ  
 あ め ふ り し き へ り し た に も



5 5 1 5 | 6 6 5 - | 3 1 5 2 | 1 - 0 |  
 ア レ ニ ゾ | ア レ シ オ ホ ト ノ ニ  
 か せ ふ き す さ ぶ け べ に も



3 3 1 3 | 2 2 5 - | 6 6 5 1 | 2 - 0 |  
 ミ ト セ ノ ツ キ ヒ シ ノ ギ ツ ツ  
 お ほ み の う へ は わ す ら れ て

Lento. (スツク)



3 3 1 3 | 2 2 5 0 | 6 6 5 1 | 2 3 1 5 | 5 4 3 3 | 2 2 1 - ||  
 タ ミ ノ カ マ ド フ | ニ ギ ハ シ タ マ フ ソ | ノ オ ホ ミ メ グ ミ  
 た め の う へ の み お も ほ し た ま ふ そ の お は み こ こ

# 我陸軍

あやに畏(一) わがすめらぎの雄々し  
 御國をまもる 分ちはあれど  
 騎砲工のつ 君のため  
 手むかふ敵を 騎兵の槍と  
 歩兵の銃もて 砲兵の拂ふし  
 敵營くすは 工兵の鉄丸  
 敵を千里(三) おひしりぞけて  
 凱歌奏する わが陸軍の響  
 きくも勇まし、わが陸軍の友  
 萬歳となへて、うたへや

演奏注意  
 ○豫習曲として前學年に出でたる「朝風」を復習すべし  
 ○第二段第一小節なる「音」の高度の下らざる様注意すべし  
 ○第二章の歌詞中「歩兵」と「砲兵」との混ざる様注意あるべし

我が陸軍には騎兵歩兵砲兵工兵輜重兵などの種類があつて各その務めを守り君のため國のために命をさげつて盡すさまを詠んだのである。  
 あやにかしこきはめて尊い。  
 すめらぎ天皇陛下。  
 敵營敵の陣屋。  
 敵歌敵の陣屋にかちたるよきの歌

# 我陸軍

壯大=(J=96)(と調四分ノ四拍子)

5. 5 | 1-1 3 2 1 | 5-5 5 4 3 | 2 3 4 5 5 | 1-.

アテキ ニカテシ コニキ ガヘニ スイメ ラロツ キリケ ノとテ

1. 7 | 6. 5 6 7 1 2 | 3- 2 5 5 | 4. 4 4 3 2 | 5-.

ミハカ クイニ カソニ ー ー モモス ルテラ ヲハツ ヲノチ ナベニ シキ

6. 5 | 4. 3 2 3 4 5 | 6- 5 5 5 | 1. 3 2 5 1 3 | 2-.

ホテキ キヨモ ー ー コクサ ー ー ナマ ノハシ ヲカ ナヘリ ヲノク ー ー ノ

七

1 | 6. 6 6 5 4 3 | 2. 3 4 5 | 4. 3 2 5 | 1-.

ロペン コキヤ ロライ トニキ ー ー トダク ー ー ヲハツ キー

京都

櫻に名を得し、  
 春秋紅葉に知らる、  
 富みたる處ぞ、  
 西高景、  
 京尾山、  
 は山

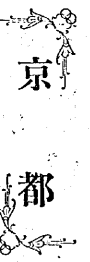
千歳のいにしへ、  
 都の定へ、  
 今なほ仰ぐも、  
 か影し、  
 こを、  
 や

宮にも寺にも、  
 地を忘るな、  
 公歴、  
 我史、  
 があ、  
 友、  
 よ

東洋無双の名所ぞ、  
 西園、  
 京と、  
 は

京都は山紫水明というて風景の佳いへに桓武天皇以來千年餘  
 ほどの都の地であるから昔の御所をはじめ名勝古跡が数へられぬ  
 名を得しの高よばん  
 知らるゝ世に知られたることでは  
 定めましゝより定めなされましてから  
 内裏大内と申して天皇陛下の入らせられる御殿

演奏注意  
 ○第一段第二段及び第四段の各第二小節より第三小節へは間滑に移るべし



京都

優美 = (♩=68) (1と4拍子)

Musical score for 'Kyoto' in G major, 4/4 time. The score consists of four staves of music with corresponding Japanese lyrics written below each staff. The lyrics are: 櫻に名を得し、春秋紅葉に知らる、富みたる處ぞ、西高景、京尾山、は山、千歳のいにしへ、都の定へ、今なほ仰ぐも、か影し、こを、や、宮にも寺にも、地を忘るな、公歴、我史、があ、友、よ、東洋無双の名所ぞ、西園、京と、は、京都は山紫水明というて風景の佳いへに桓武天皇以來千年餘ほどの都の地であるから昔の御所をはじめ名勝古跡が数へられぬ名を得しの高よばん、知らるゝ世に知られたることでは、定めましゝより定めなされましてから、内裏大内と申して天皇陛下の入らせられる御殿。

ワシントン

天はゆるさじ、

良民の、

自由をなみする、

虐政を、

十三州の、

血はほとばしり、

こゝにたちたる、

ワシントン、

ロッキーおろし、

吹荒れて、

ハドソン灣に、

浪さわぎ、

劍戟ひゞぎ、

軍馬嘶く、

すは戦の、

勝利を告ぐる、

喇叭の音

邦の父ぞと、

仰がれて、

ミシガン湖上

秋月高く、

輝く君が、

そのいさを。

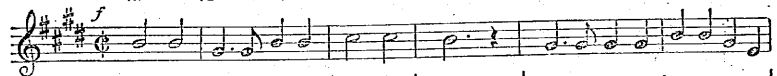
これはワシントンが合衆國獨立戦争の大將となつて、みごと戦争に勝ち其國を立派に獨立せしめたいさををほめたのである。天はゆるさじ云々、に於ては、良民とはよき人民をなみするとは無いもの、ふ政事のことである、故に二句の意はよき人民をむくこと無し、といふこと、いふこと、故に二人がゆるしても天は許すまいといふこと。

十三州の血は云々、合衆國全體が戦争にふり起つて、ワシントン山から吹きおろす風、

劍戟つるぎやほこ、吹きおろす風、  
嘶く馬の鳴くこと、  
秋月高く云々、秋の月のよりに高く明かにワシントン

演奏注意 ○特に拍節機の度數に注意し各小節の強弱部に力を入れて歌ふべし但し決して叫唱の弊に陥るべからず ○當曲は(調に移す事を得

Marcato. 重々シク (♩=104)(ほ調二分ノ二拍子)



5-5- | 3-3 5 5 | 6-6- | 5--0 | 3-3 3 3 | 5 5 3 1 |

天ハユルサシ良民ノ ジューヲナミスル



2-2- | 5--0 | 5-6 7 | 1-1 1- | 2 2 3 6 | 5-5 5- |

虐政ヲ 十サンシュノチハホトバシリ



1-2 3 | 6-6 6 6 | 5-5 5 5 | 1--0 || 5-5- | 3-3 5- |

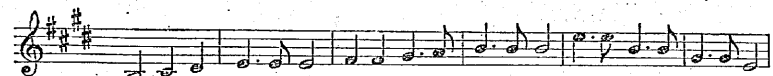
ニコニタチタルワシントン ロッキオーロシ



6-6 6 6 | 5--0 | 3-3 3- | 5-3 1 | 2-2 2 2 | 5--0 |

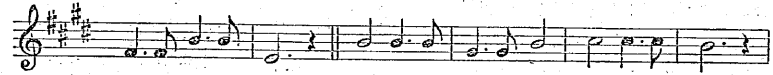
フキアレテ ハドソソワンニナミサハギ

ワ  
シ  
ン  
ト  
ン  
(十三ニ一ニシハツク)



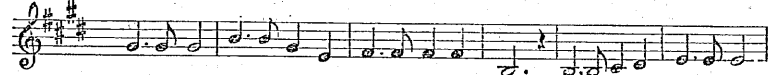
5-6 7 | 1-1 1- | 2 2 3 4 | 5-5 5- | 1-1 5-5 | 3-3 1- |

剣グキヒビキ グンバイ ナナク スハタカヒノ



2-2 5-5 | 1--0 || 5-5 5- | 3-3 5- | 6-6 6- | 5--0 |

トキノコエ 勝利ヲソグル ラッパノネ



3-3 3- | 5-5 3 1 | 2-2 2 2 | 5--0 | 5-5 6 7 | 1-1 1- |

クニノチチゾト アフガレテ ミシガン コジョ



2-3 6 | 5-5 5- | 5-5 1-1 | 5-5 3 1 | 2-2 5-5 | 1--0 |

秋グツタカク カガヤク キミガー ソノイサヲ

ワ  
シ  
ン  
ト  
ン  
(十三ニ一ニシハツク)

# 富士山

(一)

あふげよや、ふじのやま  
 やまくの、あるなかに、  
 おほ空の、雲を着て、

(二)

けだかきが、そのすがた  
 のぞめよや、富士のみね、  
 みねくは、おほかれど、  
 ちとせふる、しら雪の、  
 きよきこそ、そのころ。

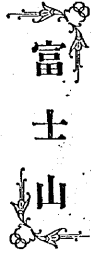
けだかき上品な。

### 演奏注意

重々しく歌ふべく、然かも緩慢に流るべからず

財大=(♩=104)(變は調四分ノ四拍子)

1 | 1 3. 5 | i- 0 5 | i- 6. 6 | 6- 0 |  
 ア の ぞ め よ ヤ フ ジ ノ ヤ マ ね  
 6 | i- 7 6 | 5- 0 5 | 4- 3. 2 | 2- 0 |  
 ヤ マ ヤ マ ノ ア ル ナ カ ニ  
 み ね み ね は お は か れ ど  
 4 | 3 2 1 3 | 5- 0 6 | 5 4 3 5 | i- 0 |  
 オ ホ ゾ ラ ノ ク モ ヲ キ テ  
 ち と せ ふ る し ら ゆ き の  
 5 | i- 6. 6 | 6- 0 i | 3- 2. 1 | 1- 0 ||  
 ケ グ カ キ ガ ソ ノ ス ガ ク  
 き ぎ こ ろ そ の こ こ ろ



# 富士山

# 田舎の夕ぐれ

鎮守の森のひかり、森消えはてに、  
 夕日のがるゝ、里川まぐれ、  
 おともねむたき、夕川まぐれ、  
 ほそくながるゝ、里川まぐれ、  
 樂しき家に、(二) 鐘の群の馬鳥を、  
 しづけのねぐらに、田の群の馬鳥を、  
 送りてひやく、く、鐘の群の馬鳥を、  
 はや世はすべて、(三) 出はつるまで、  
 間はあすの朝日の、空をとるや、  
 瞬きは世をめぐめぬ、空をとるや、  
 朝までおれが、(略解) 空の星がきら／＼と光

注意演奏  
 ○○充分發想に注意すべし  
 ○○第二段及第四段の各第二小節なる第一音符は滑らかに弱く歌ふを要す  
 ○○第三段の第二小節及第三段の末節なる二分音符は、意は其高度下り  
 ○○最後の二小節は速度を緩め且つ微聲に歌ひ納むべし

成ヲ以テ(J=66)(變は調四分ノ四拍子)

ナタハ  
 ヲノシロ  
 モキハ  
 イハ  
 ノニア  
 モシク  
 カノ  
 ヤナテ  
 ニをマ

フダス  
 ヒのノ  
 ノレフ  
 ケ  
 ヒササ  
 ヤ  
 キビイ  
 ニラソ  
 ハー  
 ラドマ  
 リ  
 テナデ

カシヤ  
 ツグミ  
 タリノ  
 ナキヨ  
 ガン  
 ルヤ  
 ルにチ  
 サタマ  
 トのモ  
 ガラ  
 ハマ  
 ノをヤ

オオヤ  
 トク  
 モリ  
 ナ  
 ナ  
 ムソ  
 キク  
 ユカ  
 フ  
 マ  
 ヤ  
 レ

# 田舎の夕ぐれ





# 靖國神社

矢玉(一)の中にて、

義勇(二)の身を齎し、

たふとしいさまし、

このみやしろ。

園生の櫻は、

雲井をあふげば、

富士の高根、

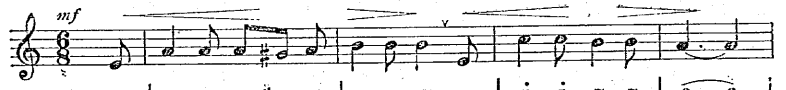
うつくしいさまし、

彈丸の中死んだ勇ましい兵士の魂は死んだ後も國を  
開くか祭られるは富士山が見えるさても尊い花が満  
なア。略解の國のために出す勇氣と  
義勇君の大義のためにつくす  
神垣は社のこと指したものである。

演奏注意 ○稍悲し氣に然かも力を以て歌ふべし  
○第二段第二小節の末音より同第四小節に至る六個音符(クニノシヅメ)は稍速度を緩めて押すが如く歌ふべし

# 靖國神社

威ヲ以テ(♩=112)(は調八分ノ六拍子)



一. ヤダマノ一ナカニテミヲタフシシ  
二. そのふの一さくらはいままさか



ギユ一ノタマシヒクニノシヅメ一  
くもゐをあふげばふじのたかね



タフトシ一イサマシコノミヤシロ一  
うつくしいさましこのかみが

# 日本武尊

(一)

をとめのすがたに、

まぎれいる、

みをやつし、

ぞくのにひむろ、

いはひのさかつき、

とりに

ふせる、

くまそたける、

ときこそよけれど、

ふところの、

つるぎもて、

あはやひとさし、

(二)

さがむの野なかに、

もゆる火を、

つるぎもて、

なびけかへしつ、

あらなみいかれる、

うみのうへを、

小舟もて、

おしわけわたる、

ひがしのえみしら、

ことく、

まつろひぬ、

たゞひとつうちに、

うべなうべな、

日本武の御名や。

身をやつしとすがたをかへること

にひむろ 新に建てた室

とりく 此の語の下に酌みてといふ語を入れて見

あはやひとさし 一さしにいふまに

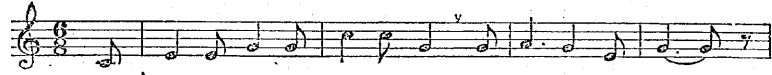
さがむの野なかに云々 弟のほなかにたちてとひし君はもと火

まつろひぬ おしたが 記に見ゆさがむとは相模のこと

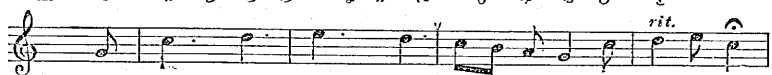
うべなく 云々 尤もだなア、日本武と

演 〇此の六拍子は力を以て早き二拍子の如く歌ふべし(水車の曲参照)  
〇此の概ある所は充分着きて、(二)學年の親のめぐみ(参照)  
意注 〇臨時變記號り初めて現はる

男マシク(♩.=104)(は調八分ノ六拍子)



1 | 3 3 5 5 | i i 5 5 | 6. 5 3 | 5. 5 0 |  
ト ト ヲ ノ ス ガ タ ニ ミ ヲ ヤ ツ シ  
さ が む の の な か に も む る ひ を



5 | i. 2. 3. 2. | i 7 6 5 | i 2 3 i |  
マ ギ レ イ ル ツ ノ ニ ヒ ム  
つ る り も て な ー び け か へ し つ



a tempo. 1 | i 6 4 6 | 5 3 1 1 | 2 3 4 5 | 6. 6 0 |  
イ ハ ヒ ノ サ カ ツ キ ト リ ー ド ツ ニ  
あ ら な み い か れ る う み の う へ を



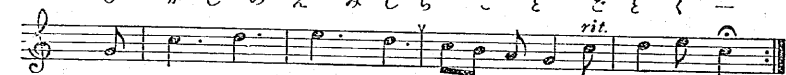
25 6 | i. b 7. | 6. 5. | 4 3 2 5 6 | 5. 1 0 |  
エ ヒ フ セ ル ク ー マ ツ タ ケ  
を お ね も て お し わ け ば た る

日本武尊

(二十四ページへつづく)



1 | 3 3 5 5 | i i 5 5 | 6. 5 3 | 5. 5 0 |  
ト キ コ ソ ヨ ケ レ ト フ ト コ ロ  
ひ が し の え み し ら こ と と く



5 | 1. 2. 3. 2. | i 7 6 5 | i 2 3 i |  
ツ ル ギ ゾ モ テ ア ハ ヤ ヒ ト サ  
ま つ ろ ひ ぬ た ー だ ひ と う ち に



a tempo. 1 | i i i 5 5 5 | 3 3 1 1 | 3 4 5 5 | i 3 i |  
う べ な う べ な や ま と た け る の み な ー や

日本武尊

(二十五ページへつづく)

歳暮

(一) 矢よりも早く、過ぎ行きし、  
 今年は何を、なしたるぞ、  
 花にもみちに、遊びしも、  
 昨日か今日の、よくなるに、  
 (二) 一夜あけなば、新玉の、  
 年たちかへり、望みある、  
 時のきたらん、うれしさを、  
 (三) 今年は舟を、やらざりし、  
 學の海も、明日は見ん、  
 吹かば吹け、さよ嵐、  
 進めや勇氣を、かちとして、

今年は何もしないで早くすぎた。もう一夜明かすと新しい望み  
 の多い年が来る。来年こそは勇氣を出して學ばうわいといふこ  
 何をなしつるぞ何をしたか何もこれ  
 新玉の年といふ語の  
 今年は舟をやらざりし今年はまだ學ばなかつたといふこ  
 さよ嵐夜吹くあらし、  
 勇氣をかちとしてしるく言ひなしたるもの

意注奏演  
 ○第三段に於ける八分音符の連続は急がず滑かに歌ふべし

成ヲ以テ(♩=96)(變ろ調四分ノ四拍子)

歳暮

ナヒコ  
 ヨト  
 シ  
 ムシ  
 ムアハ  
 ハゲフ  
 ナナホ  
 ヲバナ  
 スアヤ  
 ギララ  
 ユタツ  
 キマイ  
 シノシ

イ  
 イ  
 2  
 2  
 3-2  
 1  
 7  
 7  
 1  
 7  
 6--0

ロト  
 トシ  
 シタビ  
 ハシ  
 ナカ  
 ニニ  
 ナリ  
 ナ  
 ソ  
 ツ  
 ル  
 ソ  
 ヲ

3-4 3 | 4 3 4 6 7 7 | 1 7 6 7 1 7 1 2 | 3-0 |

ナ  
 ナ  
 ニ  
 モ  
 ミ  
 ナ  
 ナ  
 ナ  
 ア  
 ソ  
 ビ  
 シ  
 モ

ナ  
 ナ  
 ナ  
 ナ  
 ナ  
 ナ  
 ナ  
 ナ  
 ナ  
 ナ  
 ナ

キ  
 ノ  
 フ  
 カ  
 ケ  
 フ  
 ノ  
 ナ  
 ヲ  
 ナ  
 ナ  
 ナ  
 ナ

樂しき我家

花はなこそ（一）薫かほらね、  
わがこの園うゑ

月つきこそ（二）句くはね、  
わがこの軒のき

かすみは常磐とこしほに、  
まがきをこめ、

春風はるかぜのどかに、  
袖そでにふけり、

薫かほれる花はなには、  
雨あめ風かぜあり、

句くへる月つきには、  
雲くも霧きりあり、

わが此こゝ園うゑ生なまと、  
軒のき端はたとには、

あらしもふかず、  
雲くもまたなし、

父母ちちうぢは（三）らから、  
おのもおのも、

あくればそれ（四）、  
つとめにつき、

くるれば一つに、  
うちつとひて、

たのしくのとけく、  
語ことばらひつゝ、

語ことばら（四）ふ言ことばに、  
花はなはにほひ、

へだてぬ心こゝろに、  
月つきこそすめ、

たのしき園うゑ生なまや、  
わがこの園うゑ

のとけき軒のき端はたや、  
わがこの軒のき

月つきこそ句くはね、  
は月つきが十分に照あらぬこと、

常磐とこしほにいつも、  
まがき垣根かきねの事、

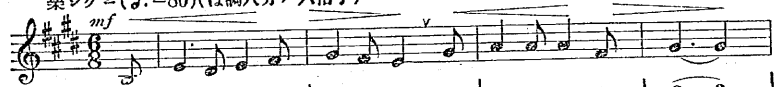
園うゑ生なまた、園うゑといふこと、  
おのも、皆々みなそれ（五）に、

演（六） ○豫習曲として二學年に出させる「水車」を復習すべし

注意 ○快活に、稍早き二拍子の如く且つ動搖するが如き聲にゆらくと歌ふべし

二十九

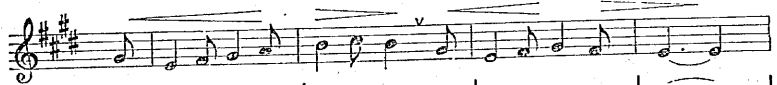
楽シゲ=(J.=80)(ほ調八分ノ六拍子)



一. ハ ナ コ ツ カ フ ラ ネ ワ ガ コ ノ ソ ノ  
 二. か を れ る は な に は あ め か せ あ り  
 三. チ チ ハ ハ ハ ラ カ ラ オ ノ モ オ ノ  
 四. か た ら ふ こ と ば に は な は に ほ

樂しき我家

(三十一ページへつづく)



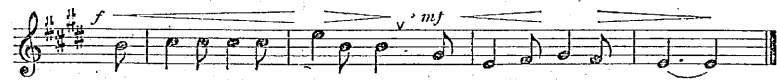
五. ツ キ コ ツ ニ ホ ハ ネ ワ ガ コ ノ ノ キ  
 に ほ る つ ニ ホ ハ ネ ワ ガ コ ノ ノ キ  
 ア ク レ バ ソ レ ゾ レ ツ ト ノ ニ ツ  
 へ だ て ぬ こ こ ろ に つ き こ そ す め



一. カ ス ミ ハ ト キ ハ ニ マ ガ キ フ コ メ  
 わ が こ の そ の ふ と の き ば と に は  
 ク ル レ バ ヒ ト ツ ニ ウ チ ツ ド ビ テ  
 た の し き そ の ふ や わ が こ の そ の

樂しき我家

(三十一ページへつづく)



五. ハ ル カ ビ ノ ド カ ニ ソ デ ニ フ ケ リ  
 あ ら し も ふ か ー ナ く も ま た な し  
 タ ノ シ ク ノ ド ケ タ カ タ ラ ヒ ツ  
 の ど け き の き ば や わ が こ の の き

日本海軍

(一)  
 山<sup>やま</sup>なす巨艦<sup>こくばん</sup>は、  
 海<sup>うみ</sup>の城<sup>しろ</sup>か、  
 水<sup>みづ</sup>雷<sup>らい</sup>大<sup>おほ</sup>砲<sup>ぱう</sup>、  
 そなへきびし、  
 マスト<sup>マスト</sup>は高く、  
 雲<sup>くも</sup>をし<sup>し</sup>のぎ、  
 ひらめく日の旗<sup>はた</sup>、  
 怒<sup>おど</sup>濤<sup>う</sup>萬<sup>まん</sup>里<sup>り</sup>、  
 縦<sup>たて</sup>横<sup>よこ</sup>自在<sup>ざいざい</sup>、  
 縦<sup>たて</sup>横<sup>よこ</sup>自在<sup>ざいざい</sup>、  
 縦<sup>たて</sup>横<sup>よこ</sup>自在<sup>ざいざい</sup>、  
 縦<sup>たて</sup>横<sup>よこ</sup>自在<sup>ざいざい</sup>、  
 變<sup>かへ</sup>幻<sup>まぼろし</sup>出<sup>で</sup>没<sup>ぼつ</sup>、  
 鬼<sup>おに</sup>神<sup>かみ</sup>も泣<sup>な</sup>き、  
 海<sup>うみ</sup>龍<sup>りゆう</sup>おそれて、  
 愉<sup>たのしみ</sup>々々、  
 海<sup>うみ</sup>軍<sup>いくさ</sup>動<sup>うご</sup>作<sup>わざ</sup>、  
 愉<sup>たのしみ</sup>々々、  
 海<sup>うみ</sup>軍<sup>いくさ</sup>動<sup>うご</sup>作<sup>わざ</sup>、

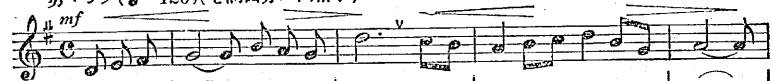
(三)  
 海軍動作は、  
 海國男兒の、  
 戦時は萬里に、  
 平時は敵をやぶり、  
 重し國をまもる、  
 海軍任務、

一の歌は軍艦の壯大なさまで自在に走ることのべ二の歌はかかる軍艦を自由にあつかふ我が海軍の動作を説き三の歌は平常と戦時との海軍任務を示したのである。

山なす巨艦は云々に山のよ一な大きい船は海の中と怒濤大波のことを怒れる波とお  
 變幻出沒云々見えたかと思へば隠れ隠れたかと思へば又あらはれるといふ手ぎはいかに手あらいおはかしくも泣き海に住むといふ龍までも姿をかくしてしまふ。  
 動作はたらしむまふ。  
 海國男兒のこれぞつとめこれぞ海國男兒のつとめといふべきを言葉の勢をつよめるため  
 任務ひきうけて行ふべきつとめ  
 此れを言葉の順序をかへたのである。

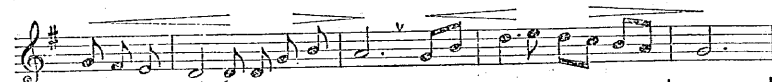
演奏 ○前出「乳牛」若くは「我陸軍」を豫習すべし  
 注意 ○當曲は(ハ)調に移すも可なり

勇マシク(♩=120)(と調四分ノ四拍子)



5 6 7 | 1-1 3 2 1 | 5- 4 3 | 2 3 4 5 3 1 | 2- 2 |

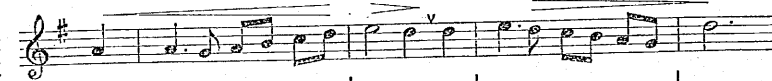
三三三  
ヤ マ ナ ス キ カ ハ ヲ ミ ノ シ ロ カ ナ  
ジ イ オ ン ー ジ ヨ カ ン ン ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
カ イ ヲ ン ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー



1 7 9 | 5- 5 5 1 3 | 2- 1 3 | 5 6 5 4 3 2 | 1- |

ス イ ラ イ ー タ イ ホ ー ン ソ ナ ハ キ ー ー ー シ  
ジ ャ イ ヲ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
カ イ ヲ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー

三十五

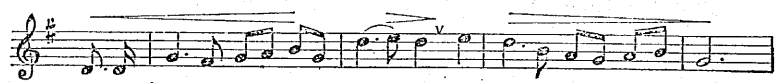


2 | 2 1 2 3 4 5 | 6- 5 5 | 6 5 4 3 2 1 | 5- |

マ ス ト ハ ー ー ー カ ク ク モ チ シ ノ ー ー ー  
ヘ ン シ ヲ ン ハ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
ン シ ヲ ン ハ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー

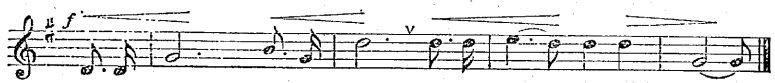
日本海軍

(三十四ページへつゞく)



5 5 | 1 7 1 2 3 1 | 5 6 5 6 | 5 3 2 1 2 3 | 1- |

ヒ ツ メ ク ヒ ノ ハ ー ー ミ ル モ チ ナ ー ー ン  
カ ー イ シ ン ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー



5 5 | 1- 3 1 | 5- 5 5 | 6 5 5 5 | 1- 1 |

フ ト ー ー バ ン ー ー ー ジュ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
カ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
カ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー

日本海軍

(三十五ページへつゞく)



御眞影

現 雲の御神、大御神と  
 みかけをいまでも、あのあたりなる  
 をろがむことの、うれしきよ

天皇陛下 (二)  
 み太刀そばめ、み手うごかし、  
 かしこき御影、仰おもふまで  
 をろがむけふの、かしこさよ

皇后陛下 (三)  
 み手の扇子、み裳すそさへ、  
 かしこきみかけ、見ゆるまで、  
 をろがむけふの、たふとさよ

目の前に見奉る神の如くに九重の御所の奥に仰ぎ奉る 雨陛下  
 の御姿を今こゝに拜み奉ること何たるうれしいことよ  
 御太刀をば御腰の側におしよせ御手をば動かしなされて何かも  
 むといふは何たるかと思はれるほど尊い天皇陛下の御寫眞をが  
 御手の扇子や御めしもの、すそまで、ゆれ動くかしらんと思はれ  
 るほど尊い皇后陛下の御寫眞をがむといふは何と尊いことよ

略解

意注奏演  
 重々しく歌ふべく且つ緩漫に流れざる様注意すべし

御眞影

敬意ヲ以テ重々シク(♩=96)(變は調四分ノ四拍子)

5 | i- 5- | 6. 6 5 4 | 3. 2. 2. 2. | 5- 0 |  
 アノミ きたア ツノ ミモア カバフ ミメギ オクミ  
 ホテホ ミウス カジツ ミカサ トシハ

5 | i- 5. 5 | 6. 6 5 4 | 3- 2. 2 | 1- 0 |  
 クミイ ヨコイ ノトサ ナラフ ナサア ニト アオミ  
 フシニ ケフル ナミマ カデア

mf 1 | 2- 5. 5 | 1. 2 3 3 | 6- 5 4 | 5- 0 |  
 ミカカ カシシ ゲニコ チスキ イミミ マカカ アンゲ マアア  
 ノフ アギギ タツツ ヴツツ

5 | 1- 2 2 | 3. 4 5 5 | 6- 5. 5 | (1- 0 |  
 ナナナ ロロロ ガガガ ヌム ヌ ヌ ヌ  
 コリッ トムフ ノのノ ワカス レシノ サササ  
 ヨヨヨ

### 名は萬代

(一)

虎は死して皮を留む、

虎は百獸の王、

人を以て獸に若かざるへけむや、

怠るな惰るな、

朽ちたる木は彫るべからず、

はげめはげめ、

志は氣の帥なり、

人は一代、

名は末代、

芳を千歳にながせよ、

(二)

人は死して名を残す、

人は萬物の靈、

人となりて務に怠るべけんや、

怠るな怠るな、

糞土の牆朽るべからず、

はげめはげめ、

志は氣の帥なり、

人は一代、

名は末代、

名をば萬世に傳へよ、

朽ちたる木は彫るべからず、糞土の牆朽るべからず、

之は孔子の語で論語にあるが、さて其の意は朽ちた木にははげりものができず、土の壁では屏などを塗ることができない、志のくさった者に教へても無益なのは、この如くであるといふこと、牆とは土屏の類、朽とは鏝で塗ること、

志は氣の帥なり、之は孟子の語である、氣とは元氣、勇氣など、志とは心の向く處である、如き身體をはげまして起るものから志がくさつて居るときは勇氣も元氣も出るものでないといふこと、

人は一代、名は末代、人の身體は一代かぎり、死すれば葬つてば、其人の名は千萬年の末の代までも傳はるものである、

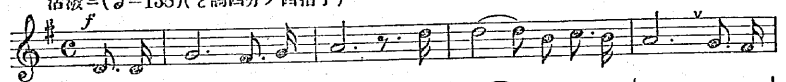
芳を千歳にながせ、芳は芳名というて善い事をしたと人に後まで傳へること、故に善い名を千年の

○豫習曲として「日本海軍」を復習すべし

演奏注意 ○凡ての附點八分音符及十六分音符はスタッカトに(短かく)、又凡ての附點二分音符は必ず其價值だけの音長を保つよー注意すべし

○最尾の二小節は其音符の價值、前と同じからず(長し)混すべからず

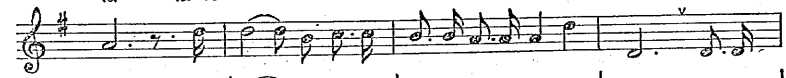
活潑=(♩=133)(と調四分ノ四拍子)



5. 5 | 1. 7. 1 | 2. 0. 5 | 5. 5 3 4. 3 | 2. 1. 7 |  
 ト ラ ハ シ シ テ カ ハ フ ト ド ム ト ラ  
 ひ と は し し て な を の こ す ひ と



6. 6 6 5. 5 | 2. 2 2 2. 3 | 1. 0. 5 | 5. 5 3 4. 3 |  
 ハ ヒ バ ン ブ ツ ノ オ ヒ ト ヲ モ  
 は ば はん ぶ つ の れ い ひ と となり



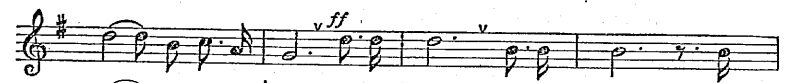
2. 0. 5 | 5. 5 3 4. 4 | 3. 3 2. 2 2 5 | 5. 5. 5 |  
 テ ケ モ ノ ニ シ カ ザ ル ベ ケ ン ヤ オ コ  
 て かつ と め に お こ た る べ け ん や お こ



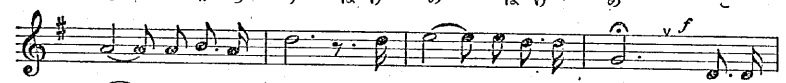
1. 1 7. 7. 6. 6 | 5. 0. 5 | 2. 2 2 1. 2 | 3. 0. 5 |  
 タ ル ナ オ コ タ ル ナ ク チ ン タ ル キ ハ キ  
 た る な お こ た る な ち ん と の か は き

名ハ萬代

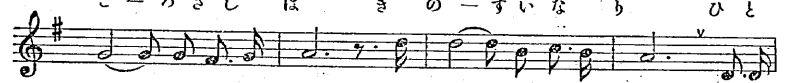
(四十二ページへつゞく)



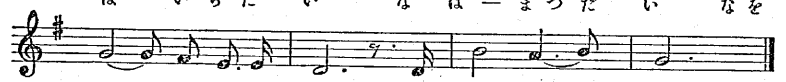
5. 5 3 4. 2 | 1. 5. 5 | 5. 3. 3 | 3. 0. 3 |  
 ル ベ カ ラ ズ ハ ゲ メ ハ ゲ メ コ  
 る べ から ず は げ め は げ め こ



2. 2 2 3. 2 | 5. 0. 5 | 6. 6 6 5. 5 | 1. 5. 5 |  
 コ ロ ザ シ ハ キ ノ ス イ ナ リ ヒ ト  
 こ ろ ざ し は き の す い な り ひ と



1. 1 1 7. 1 | 2. 0. 5 | 5. 5 3 4. 3 | 2. 5. 5 |  
 ハ イ チ ダ イ ナ ハ マ ツ ダ イ ヒ  
 は い ち だ い な は ま つ だ い な



1. 1 7. 6. 6 | 5. 0. 5 | 3. 2. 3 | 1. 1 |  
 ラ セ ン ザ イ ニ ナ ツ ガ セ ヨ  
 は ばん せい に な つ が た へ ー よ

名ハ萬代

(四十一ページへつゞく)

花鳥

(一)

柴のあみ戸の、

なほ山陰は、の

おぼろ月夜、の、

霞に影ながら

花のこもる、ら

峰の横雲、の、

や、山ぎはも、

句へ見えそめて、

霞をものる、

鳥の、

やよひの野への、

朝露に、

よそひこらして、

いろかあらそふ、

花の姿ぞ、

うるはしき、

やよひの野邊の、

あさぼらけ、

ふしをきそひて、

とりのくに、

うたひかはせる、

百千鳥、

聲の匂ひぞ、

うつくしき、

柴ぐらゐであんだ戸をしめてある山家の夜あけがたに山のかげ

はまだ暗く花の色がなほおぼろ月の影にてらされたなりで霞に

こめられてある。

さてしばらくすると峯に横たはって居る雲が晴れわかれて山の

はしの方も少々見えかゝりうつくしい花の色なりにとざしてあ

る霞の中から鳥の鳴き聲が洩れて聞える。

陰曆三月の頃は野邊の桃や櫻がめい／＼思ひ思ひに朝露で立派

なよそはひを十分にして色や香をあらそうて居る。その花の姿

は實にきれいである。

春の野邊の明けがたに多くの鳥が思ひ／＼におもしろう歌うて

居る。その聲のふしは實にうつくしい。(右略解)

優美=(♩=88)(變り調四分ノ四拍子)



♩ | 5̣. 3̣ 3̣ 5̣ 1̣ 5̣ | 5-3 5 | 4̣. 3̣ 2̣ 3̣ 4̣ 2̣ | 3̣-.. |

一. シ バ ノ ア - ミ - フ ノ ア ク - キ - ノ - コ  
 二. み の の と - こ - く も た 5 - わ - か - れ  
 三. ヤ ヨ ヒ ノ - ノ - ア サ - ツ - ユ - ニ  
 四. ヤ と ひ の - の - へ の あ 3 - 4 - 5 - U



花



鳥

(四十四スーシへツク)



♩ | 5̣. 3̣ 3̣ 5̣ 1̣ 5̣ | 5-3 5 | 1̣. 2̣ 1̣ 7̣ 6̣ 7̣ | 1̣-.. |

ナ キ ヤ マ - カ - シ ハ チ ク - ラ - ク - テ  
 ヤ ヤ ヤ キ - ギ - ヒ ミ の え - そ - め - て  
 ヨ ヲ ヒ ノ - ラ - シ オ ノ - ガ - シ - ヲ  
 ぶ し た き - そ - ひ て と リ - ど - リ - に

四十五



♩ | 2̣. 2̣ 1̣ 2̣ 3̣ | 4-3 2 | 1̣. 2̣ 3̣. 1̣ | 2̣-.. |

オ ホ ロ ツ キ - ヨ ノ カ シ - ナ ガ ラ  
 に ほ へ る け - な の い る - ナ ガ ラ  
 イ ロ カ ア ツ - ソ フ コ ヨ - ナ ガ ラ  
 う た ひ か け - せ る も し - 5 ど り



花



鳥

(四十五スーシのつぐき)  
 (女子用)

四十四



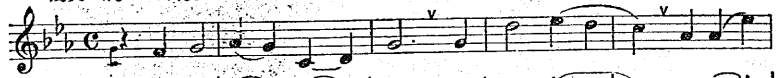
♩ | 2̣. 3̣. 2̣ 1̣ 2̣ 3̣ | 4-2 3 | 5̣. 1̣ 3̣ 2̣ 1̣ 7̣ | 1̣-.. |

カ ス ミ ニ ヨ - キ ル ハ ナ - ノ - イ - ロ  
 か す み を も - る る と ナリ - の - こ - ズ  
 こ ズ の に ほ - ひ ぞ り つ - く - し - き



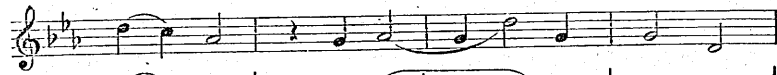


優美=(♩=88)(變は調四分ノ四拍子)



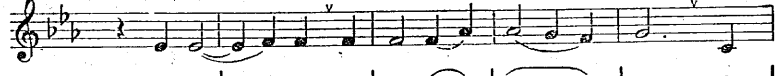
0 2 3- | 4 3 6 7 | 3- 3 | 7- 1 7 | 6 4 4 1 |

三 コケノヒグラ、パカ  
かうほねのはなとはな



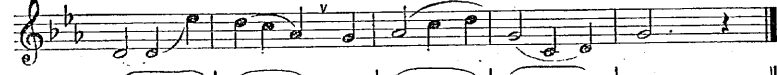
7 6 4- | 0 3 4- | 3 7- 3 | 3- 7-

リニナミタテ  
しをまはかりし



0 1 1- | 1 2 2 2 | 2- 2 4 | 4- 3 2 | 3- 6 |

オヨネとハシルカ  
ふねとハシルカ



7-7 1 | 7 6 4 3 | 4- 6 7 | 3- 6 ? | 3- 0 ||

ケノミヅト  
けのみのみづと



# 水鳥

(一)

こけのひげ、

あらふばかりに、

なみたて、

およぎまはるか、

池の水鳥、

(二)

河骨の、

花と花とを、

眞帆かけし、

船とはしるか、

池の水鳥

演奏注意  
○曲首の小形音符は楽器のみにて弾き、直ちに歌ひ始めし  
○極めて滑かに又流暢に歌ふべし

古の句に、波留苔の鬚を洗ふといふことがある。池の岸や岩などに苔を立て、およぎまはるることかな。池の水鳥は、河骨といふ水草の花と花との間を十分に帆あげた船の如くにはりまはることかな。池の水鳥は、(解釋)



1136.7

有 所 權 作 著

明	明	明	明	明	明
治	治	治	治	治	治
十	十	十	十	十	十
八	五	五	五	五	五
年	年	年	年	年	年
四	十	十	十	十	十
月	月	月	月	月	月
六	一	五	一	五	一
日	日	日	日	日	日
五	五	訂	訂	訂	訂
版	版	正	正	正	正
發	發	再	再	再	再
行	行	版	版	版	版
刷	刷	發	發	發	發
行	行	印	印	印	印
刷	刷	行	行	行	行

編者 共益商社樂器店 東京市京橋區竹川町十三番地

兼代表發行者 白井直 東京市京橋區竹川町十三番地

印刷者 野村宗十郎 東京市京橋區竹川町十三番地

發行所 共益商社樂器店 東京市京橋區竹川町十三番地

印刷所 東京市京橋區築地二丁目十七番地

定價金參拾錢

